

# Shin Club 38

（株）通信 Vol.38

2003年5月

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-24-4-7f

Phone: 03-3486-1570 Fax: 03-3486-1450

編集発行人: 松村典子

## 今月のトーク 「都心の暮らし」

中央区の人口が増えています。平成11年から15年までの5年間で73,706人から86,358人、世帯数も36,427から45,650となり、都心回帰の風潮がはっきりとうかがえます。(中央区住民基本台帳調べ)

この春、弊社で竣工させた中央区の賃貸マンション+専用住宅(Park Lane Court)の施主さんは、「東京ゆかた」という会社を営んでいる女性です。周辺の繊維問屋、メーカーが次々と廃業していく中、独自路線での商売を続けています。さんに、お仕事、そして地域の変貌について伺いました。

日本橋のこのあたりは繊維関係のお店が多いとうかがっていませんが…

そうですね。昔は「堀留」と言ったら呉服関係の問屋が軒を並べていましたが、2,3年前から廃業してどんどんマンションになるところが増えています。

でもそんな中で繁盛されていると伺っています。

いえいえ、そんな業ではありません。うちは浴衣ばかりでなく、新舞踊の同好の方がお客様。正絹ではなく、ポリエステルや綿素材で、おそろいで大量に作ってもらうものが中心です。単価は安いから利益をあげるのにはなかなか大変です。私共の会社はカタログ販売の製造卸業で、電話やFAXで注文を受けています。浴衣や着物だけでなく、和装小物全般も含めて2400点位扱っています。



踊り、祭り、和装業務の3つが主です。2年に一度カタログを発行し、売れ筋商品は引き続き出していきますが、デザインは毎回あれやこれや必死に考えています。例えば、この踊りの衣装「絵羽」などは、派手でなくてはならないから、光る素材、金などを多用して、斬新なものを描いていきます。少量でもストックしておかなくてはならないので、在庫調整は大変です。

ホームページも拝見しました。若い人向けの祥天も扱っていますね。(「お祭り天国」<http://www.tokyoyukata.com>)

この2月から立ち上げました。すぐに営業に結びつかなくても、オリジナル製品を作っていることを知ってもらいたいと思っています。「よさこい祭り」って知ってますか。高知や札幌で盛んなイベントですけど、100人くらいで鳴子を持って踊りながら、チームで競い合うものです。みんな派手な衣装を作ります。

最近、衣食住の世界でも和のブームが再び起こっています。

日本の伝統文化は大事にして守っていききたいですね。でも私共の商品のお祭祥天などは、昔からの伝統的な柄、形を基にしながら、和洋ミックスした新しいデザインのものに常に考えております。

アパレル感覚で商品作りをしていかないとお客様にあきられてしまうのではないかしら。

さんは、商品のデザインにご自身もかかわっています。桑沢のインテリア科出身でしたが、当時はインテリアコーディネーターが女性の仕事としてまだ確立されていませんでした。ファッションにも興味があったので、家業を継がれたそうですが、女性ならではの苦労もいろいろとされたようです。



呉服業界の独特の慣習がありましたが、今思うと、そんなことは腹立たしくもないですね。悲しいのは、せっかく精魂こめて作り上げたものが売れないことです。でもこのままでは、文化がなくなってしまう、だから伝統工芸にはそれ相応の対価を支払うべきなんです。京都の和工芸は分業制になっていて、10工程くらいあるうちのどれかひとつの店が欠けても大変なことになります。職人がいないんですから。呉服業界から他へ転身して、といってもアパレルのように、常に市場に分かりやすい形で提案して、だめなら次のデザインのラインで行く、なんてことが出来ることはとてもありません。

商売をやめる店があり、その後にマンションが建って、人口が増えているのをどう感じられますか。

近海ものを扱っている、いい魚屋さんが高齢で廃業され、おいしい魚が食べられなくなってがっかりしています。それから、外資系のコーヒESHOPやどこにもあるファーストフードの店ばかりが出来て、若い人たちはそういうところが好きみたいですけど普通の買い物をする店がないですよ。夕食のおかずを主婦が自転車でパートに買いに行っています。今度公園が大規模な団地を建てるでしょう。都心に近い、静かで住みやすい。でもどこでみんな買い物するのかしら。こんなにマンションばかり建って、将来は空家が増えると思うんです。だから自分のマンションは普通とは違う付加価値をつけました。

今回家作りをして、インテリア関係などは、日本の物では機能もデザイン的にもあまり気に入った物が見つかりませんでした。ファッションでは、日本はセンスの良い商品がいっぱいあるのに、インテリアの分野も今後期待していきたいですね。

昔ながらのご商売を続けながら、中央区に生き残れる人は、ごく少数の選ばれた人たちなのかもしれません。世の中の大きな流れを常に見据えて、時代にあった新しい方向をビジネスに取り入れていく。そこには、自分のこだわりに対する自信が必要不可欠です。意志のある個人の仕事こそ、ほんとうに世の中を動かす原動力になるのだと思います。「都心に暮らす」ということは、そのような個人の暮らしを大切にこそ意義あるものになるのでしょうか。

## TOPICS

### 「都心の暮らし(秋葉原の場合) ~ 通りによって運命が変わる」 ~ 「イサミヤ第8ビル」のオーナーにもお話をうかがいました ~

先月号でご紹介した、「イサミヤ第8ビル」は、外神田のパソコンショップが立ち並ぶ通りにあります。本業は看板屋さんです。

秋葉原はもともと電子部品の問屋が多い町。パソコンブームで店舗が増えましたが、住みにくくなったという声も聞きます。ここ何年かの様子を見ると、韓国系の店舗が増え、イサミヤさんのビルの中にも外国人相手のパソコンショップがあります。

パソコンショップが並ぶ通りは実は神田祭のときに少々困った問題があります。道路に商品がはみ出し、祭側が遠慮して神輿を思う存分担げないのです。お神酒所を設けることもできないので、裏通りを巡ることになるそうです。お祭あつての下町ですが、商売の邪魔も出来ない、むずかしいところですよ。

秋葉原駅前には昨年2月、UDXグループ<NTT都市開発(株)>・鹿島建設(株)及びダイビル(株)が駅前所有地を落札し、地元の要望を取り入れ、「ITセンター(仮称)」を建設することになりました(平成17年完成予定)。また大型パソコンショップの統廃合、参入の動きもあります。

駅前の開発は、「居住者も増えていいことだ」とオーナーのOさんはおっしゃいます。千代田区住民基本台帳によると、千代田区民は今年40000人に回復しました(前年度より約1000人増)。確かに周辺ではマンションが増えました。ここ1,2年で貸しビルを着工したのはイサミヤさんくらいだそうです。つまり、通りによって、事務所・店舗でやっていける通りとそうでない通りとがはっきりと分かれるのです。事務所・店舗が建たない通りではマンションを建てるしかありません。行政側では、建替えは地権者同士で話し合っ、小さな規模でなく大きな敷地で計画的な再開発を行うよう指導しています。しかし大きな建築ばかりが建った町の暮らしはどういうものになるのでしょうか。Oさんのご親戚は「千代田区まちづくり推進審議会」などのメンバーで、地元の声を反映したまちづくりに取り組んでいらっしゃいます。

Oさんは、「今回の第8ビルは、パソコン関係の雑誌でなく普通の本を売る本屋でも入ってくれば、と希望したそうです。実際は2,4階に普通の喫茶店と漫画喫茶、1,3階にパソコンショップが入りました。「漫画が入った分、少し希望がかなったかな」と考えています。最上階はトップライトを設けた空間にしました。こちらは自社スペースになります。快適空間になりそうです。



構造:鉄骨造、地上5階  
設計:有馬立郎(株)計画意匠研究所  
落ち着いたトーンの外観。周辺は派手な看板のパソコンショップが多い。トップライトを持つ最上階。手前もイサミヤビル。メタリックなデザインのエントランス。平日午前中の通り。土日の人出はかなりの多。

### 「神宮前5179計画 地鎮祭」 (4月19日) 渋谷区

構造:鉄骨造  
地上2階地下1階  
用途:店舗・住宅  
設計:桑原聡  
完成予定:2003年11月



### 「田園調布の家(MS邸) 地鎮祭」 (4月28日) 大田区

構造:木造一部RC造、地上2階  
用途:専用住宅  
設計:鈴木基紀  
空間設計社  
完成予定:2003年10月



## INFORMATION

### 「二軒家アパートメント」内覧会

さる4月26日「二軒家アパートメント」内覧会が開催されました。  
(渋谷区本町3-20-1:地下鉄大江戸線「西新宿五丁目」駅徒歩5分)

RC造壁床ラーメン式の5階建の集合住宅です。11戸のうち10戸が43㎡前後の賃貸住戸で、どの住戸もテラスやバルコニーなどを經由して、サンルームでもありバルコニーのようでもある中間領域にアクセスするようになっています。浴室、厨房、玄関と言った機能を持つこの「あいまいな領域」は両側の建具の開閉により、外と繋がったり、内と繋がったりします。都市型集合住宅の新しいプランタイプへのトライアルです。

最上階には屋上からブリッジを渡ってアクセスするペントハウス・メゾネットがあり、西新宿の「巨大な墓碑群」を眺めながらのパーティ・スペースとなっています。

構造:RC造、地上5階 設計:木下道郎/ワークショップ

なお、内覧会情報は期日の発表が、「Shin Club」掲載には間に合わないこともあるため、弊社ホームページの掲示板にその都度アップさせていただきます。(http://www.esna.co.jp)



外部と内部の中間に属する空間が新しい暮らし方を提案します。



外観:コンクリート打ち放しにガルバリウム鋼板を施した。オーナー邸、和室部分、江戸唐紙を張った襖。3F賃貸部分、リビングと個室の仕切りは可動式になっている。全室床暖房。3F賃貸部分のミニマムな洗面、トイレ。1F賃貸部分、エントランスとキッチン。天井が高く広々としている。